第４学年　道徳科学習指導案

日時：令和５年１１月２８日（火）５校時

１　主題名　「自ら信じることにしたがって」　A－（１）　善悪の判断，自律，自由と責任

２　教材名　「カマキリ」（学研　新・みんなの道徳４）

３　主題設定の理由

　　(1) ねらいとする道徳的価値（価値観）

中学年における内容項目A－(1)は，「正しいと判断したことは，自信をもって行うこと」である。４年生になると様々な学習や生活を通して，正しいことや正しくないことについての判断が高まってくる。しかし，正しいと知りつつも実行できなかったり，悪いことと知りながらも周囲に流されたり自分の弱さに負けてしまうこともある。正しいと判断したことは自信をもって行おうとする態度を育てることが大切である。

(2) 児童の実態

　　（略）

(3) 教材及び指導について（教材観・指導観）

学級の中のトラブルについて，話合いをする中で友人関係や自分の弱さから正しい判断ができないこともある。友達の行動を止めることも難しい。正しいと分かっているはずなのにという気持ちのずれに気付かせることで，本時の課題を設定していく。

本教材は，「ぼく」がインターネットを使うときに，自分の判断は正しいと思いながらも周りに流されて個人情報を入力してしまい，自分の行動に後悔の念を抱いてしまうという内容である。指導にあたっては，グループでタブレットを使い，調べ学習をする場面を想起させ，役割演技を通して登場人物の言動について考えさせる。その中で自分が正しいと思ったことを実行する難しさや主人公の感情を追体験させることにより，児童が感じたことや考えたことを取り上げて自分のこととして話合いをさせたい。終末では，自分の生活を振り返り，できた自分もできなかった自分も認め，これからの自分が自信をもって正しいと判断したことを行おうとする態度を育てる。

４　本時のねらい

よく考えて正しいと判断したことは，周りに流されることなく，自信をもって行おうとする態度を育てる。

５　ねらいにせまる手立て

(1)　事前にアンケートを行い，実体験をもとに考えることを通して，本時のねらいとする道徳的価値に対する児童の問題意識を高める。

　　(2)　役割演技を行い，道徳的価値について理解を深めるとともに，演者や見ている人として「ぼく」の気持ちについて多面的・多角的に考えることができるようにする。

　　(3)　心のものさしを使い，理解と行動との乖離を可視化することで，多様な考えがあることを捉えさせる。

６　指導過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 主な学習活動・内容 | 時間 | ○教師の支援　　◆評価　　★手立て |
| 導入 | １　アンケートから課題を設定する。(1)　正しいと思ったことを行うのは大切ですか。　　　・大切　　　・少し大切(2)　正しいと思ったことはいつでも行動に移すことができていますか。　　　・できていると思う。　　　・できていないこともある。　　　・そのときによって変わる。 | ２３正しいと分かっているのに行動できないのはなんでだろう。 | ★　事前アンケート結果を集約した２つの心のものさしを提示して比較する。（手立て1，3）○　正しいことを行うのは大切なのに，行動に移すことができないこともあるという結果に気付かせることで本時の課題につなげる。 |
| 展開 | ２　教材文「カマキリ」を読んで話し合う。　(1) 「ぼく」の行動が間違っているところはどこですか。　　・個人情報を入力した。　　・友達に流された。(2) 名前を入力しているときの「ぼく」はどんな気持ちですか。　　・本当は嫌だけど，断れない。・すごい新聞を作る約束をしたから。　　・名前くらいなら大丈夫かな。(3) 「ぼく」がしたことをどう思いますか。・何度も言われたら仕方がないと思う。　・悪いことと分かっているのに，正しいことができないのはだめ。３　実際の場面を体験して「ぼく」のするべき正しいことを考える。(役割演技)　(1)　演技をしてみて，どんなことを感じましたか。・正しいことができた。　　・どうしたらいいか分からなくなった。　　・正しいと思ったことはやるべき。　　・勇気がないと言えない。 | 20(4)(8)(8)15 | 〇　個人情報を入力してはいけないことを確認するが，本時の道徳的価値から逸れないようにする。〇　正しい行動が分かっているのに，自分で決めないで友達の考えに合わせてしまったことに気付くことができるようにする。○　正しい行動が分かっているのに，自分で決めないで友達の考えに合わせてしまったことに共感させることで，人間の心の弱さにも気付くことができるようにする。★　自分の考えを心のものさしを使いながら表出させることで，多様な考えに思いを巡らすことができるようにする。（手立て３）○　代表児童が「ぼく」を演じ，教師が友達役として揺さぶりをかける。★　演じる児童や見ている児童が「どんな気持ちになるか」という視点をもたせて役割演技をすることで，自分事として考えることができるようにする。　　（手立て２）◆　だれにでも心の弱さがあることやそれを乗り越える強さについて自分の考えを深めているか。【ワークシート・発言】 |
| 終末 | ４　これからの自分について，どのような気持ちを大切にしていくか考える。(1)　これからの自分は，正しいと思ったことをどんな気持ちで行いますか。 | ５ | ★　課題に戻り，これからの自分について心のものさしを使って考える。本音で自分の考えを発表し，尊重し合えるようにする。　　　　　　　　　（手立て３）◆　善悪の判断について，これからの自分の生活や心持ちについての考えを深めているか。【ワークシート・発表】 |